

澤田誠 学位論文審査要旨

主 査 萩 野 浩
副主査 花 島 律 子
同 兼 子 幸 一

主論文

Clinical features of freezing of gait in Parkinson's disease patients

(パーキンソン病患者におけるすくみ足の臨床的特徴)

(著者：澤田誠、和田（磯江）健二、花島律子、中島健二)

平成31年 Brain and Behavior DOI:10.1002/brb3.1244

参考論文

1. A patient with SCA6 whose balance ability was improved by outpatient rehabilitation

(外来リハビリテーションによりバランス能力が改善したSCA6患者の1例)

(著者：澤田誠、磨井祥吾、村上達則、森岡真一、野崎心、高橋浩士)

平成28年 鳥取臨床科学研究会誌 7巻 157頁～162頁

2. The clinical characteristics of patients who fall in the recovery phase rehabilitation ward

(回復期リハビリテーション病棟における患者の臨床的特徴)

(著者：水口大輔、澤田誠、丸山康德、小西吉裕)

平成30年 鳥取臨床科学研究会誌 10巻 208頁～214頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はパーキンソン病患者を対象に、臨床的診察・質問紙を用いてすくみ足を検出し、すくみ足の有無・重症度と運動症状・非運動症状等との関連を検討したものである。その結果、診察時のすくみ足検出率は低い一方、すくみ足陰性群の約半数が質問紙にてすくみ足を自覚していることが分かった。また質問紙によるすくみ足の重症度との関連因子として長い罹病期間、姿勢反射障害・歩行障害、疲労が検出された。本論文の内容は、臨床における質問紙によるすくみ足検出の有用性を示し、すくみ足の関連因子として新たに疲労を検出したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。